

平成 19 年 度 学 校 評 価 総 括 表

奈良県立高円高等学校

学校経営方針	1、魅力ある生徒を育成する学校に。	基礎学力、規範意識を土台にコミュニケーション力、自己表現力の高い人材を育成する。 それぞれの力をアップするプログラムを準備し、年間を通じて意識づけを行う。	評価(3月)
	2、挑戦意欲と広い視野を持った職員を育成する学校に。	新たな課題、難度の高い課題、やり方の決まっていない仕事に自らまたチームで挑戦していく学校づくりを目指す。「総合」、「国際」、「評価システム」、「広報戦略」などを重要課題ととらえる。	
	3、芸術の発信基地にふさわしい「内容」と「形」を。	見せる、聴かせるだけではなく、学校全体から芸術の香り、迫力が感じられる環境づくりを皆で推進する	
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
芸術3科に比べ普通科の特色づくりはきわめて難しい。正論で勝負するだけでは大きな変化は望めない。見せ方、形まで含めて意欲的なチャレンジが要求される。昨年度の反省をふまえ今年度、仕事別から、目的別・機能別へ学校運営組織の改編を行った。「総合的な学習」「キャリア教育」「国際理解」「評価システム」「教育相談」「後援会機能」など課題は山積しているが新組織の中でひとりひとりが、戦略構築の強い意志を持って臨む1年でありたい。	教科指導 「基礎基本の定着」は常に変わらぬ目標である。 本年度は「総合」「国際」を本格的に考察し、組み立てる。	すべての科目の基礎となる「読む」「書く」を徹底的に繰り返す。朝の10分間「下学上達」。 プロジェクトメンバーの視野拡大と問題提起、分析、組み立て能力の飛躍的なアップにも期待。	B
	生徒指導等 状況判断ができる生徒をひとりでも多く育成する。 人との関わりの中で学ぶ大切さを伝える。	「マナー教育」も「人権教育」も「キャリア教育」も、そしてクラブ活動もすべてが人を育てる。強い自己表現力、メッセージ力はひとつひとつの積み重ねである。	
	学校運営 前向きな姿勢と協働の意識で日常の活動をする。 特に広報の活動を強化する。	明確な打ち出しをすることで、内容や中味が充実し責任感も増す。このサイクルを機能させれば組織は前に向かって回転を始める。	
	研究・研修 各職員独自の目標設定。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	基礎学力の定着	毎朝10分の「基礎学力充実の時間『下学上達』」の取り組みを1年間継続し、全体的な底上げと学習の習慣づけを実現する。	A	◎朝の学習時間「下学上達」は継続する。静かに1日をスタートするという副産物も得られた。内容はもちろん精度を上げてゆく。◎「総合的な学習の時間」をリニューアルし、“読む聞く見る”による社会情勢の把握と“話す書く”による自己表現力のアップに全力を上げる。国語科、図書室、進路とも連携をとり、論文、紹介書等にも役立てていく。◎全職員、全生徒が授業公開、授業評価の意識を高め、満足度の高い実効のある授業をめざす。◎5月の台湾高級学校の来訪、奈良教育大学留学生との交流を皮切りに「国際理解」のプロジェクトを本格稼働させる。◎芸術科は専門分野の高レベルなチャレンジと併行して一般科目の学習への動機づけを徹底してゆきたい。
	高円オリジナル「総合的な学習の時間」の企画	平成20年度の新しい教育課程の編成に合わせ、本校生の「弱点を補強する」ことと、「社会の要請に応える」ことをともに満足する新企画を打ち立てる。	B	
	授業公開の全校体制(満足度の高い授業へ)	6月と11月を授業公開月間と定め、他教科も含めた教員相互の授業見学、その後のディスカッションを実施する。評価システム構築チームの活動とも関連。	B	
	「国際理解類型」の本格稼働	国際理解とは何かを校内で共通認識し、新科目、具体的活動を計画する。「国際理解類型」を普通科の核となる類型に育てる。	C	
生徒指導等	マナーのレベルアップ	会話に、行動に、学習態度に、すべてに状況判断が的確な魅力ある生徒を育てる。携帯電話使用ルール(朝のHRから帰りのHRまで使用禁止)を徹底する。	B	◎外部のサポートを受け、教育相談(カウンセリング)の新しい取り組みを1年間継続した。生徒、保護者からの評判もよく、次年度も効果的に機能させたい。さらに専門医(メンタルヘルス)との接続部分を研究し、難しい状況にも対応できる体制を確立したい。◎生徒の規範意識はまずまずの水準を維持したが、さらに「品格」「自己コントロール」をキーワードに、ひとりひとりと向き合った生徒指導、人権教育を続けていくつもりである。◎音楽科のミュージカル、美術・デザイン科の新たなフィールドへの挑戦などは目立ったものの、進路実績、クラブ活動実績は前年に比べやや低調だった。1・2年時の基礎学習と2・3年時の実力養成に進路情報の共有も合わせ、学校としての総合力を上げていかなければならない。クラブ活動は「1年生全入」も視野に教員間のコンセンサスを求めている。
	人権意識の浸透	「同和問題」と「障害者問題」に加え、国際化の進行とそれに伴う問題点にもアプローチ。	B	
	高円らしい「キャリア教育」	受け身のプログラム選択を改め、本校に合った「キャリア教育」の軸を創る。	B	
	教育相談の体制づくり	今年度は助走期間だが大学院生のカウンセラーとともに1年間のカウンセリング(生徒対象)とその記録、分析を行う。大学研究室とも連携。	A	
	クラブ活動で元気を	全クラブが目標設定。(全国大会出場から県レベルの初戦突破、チームとしての成立までそれぞれに見合う目標を)	B	
学校運営	学校評価システムの制度設計	特に授業評価の組み立て(19年度試行、20年度本格導入)と全体の学校評価の公開を2大テーマに企画室が中心となり完成させる。	B	◎校内人事は中期的な人材育成とローテーションを軸に考えていく。特にシステム部(教務、総務、情報システム)の再構築が最大のテーマである。高円高校の教務は難度が高い。音楽、美術、デザイン各科の制約条件がきつく、人心の掌握も難しい。芸術教育の最小限の知識とともにやわらかなマインドが必須である。◎また、企画室を中心に意欲的に取り組んできた広報活動をさらに充実させる。(対 プレス、学習塾、中学校、音楽教室、ホームページ)また、新イベントの公開も視野に入れる。合わせて足元(校内)の広報にも一考を要す。◎財政、予算の厳しいなかではあるが意欲的なチャレンジには支出を惜しまない。必要な財源を確保するためのネットワークづくりは管理職の仕事。◎一方、事務室の仕事は意識改革をベースに「処理し、支える」を脱皮して「考え、提案する」「マネージする」へ大きな転換を図ってゆきたい。
	新学校運営組織の本格稼働	19年度スタートした新組織を有機的に動かしていく。ベテランから中堅、若年層への経営意識、組織運営のための知識の伝承を検証する。また、各種委員会の再編成にも着手する。(2学期より)	B	
	広報活動の徹底・充実	継続的な本校志願者、受験者確保のため外部への発信力を高める。新ホームページの立ち上げとメンテナンス、中学校との情報交換会、プレスへの定期的な情報提供など 校内広報は意思の徹底と活性化を目的に行う。クラブや科の実績の公開、掲示、発表やイベントを盛り上げるための全校的なフォローも意識する。	A	
	人的ネットワークの拡大	学校、育友会、高志会(同窓会)、高秋会(育友会OB会)また地域自治会、中学校、大学との連携を強化する。	A	
	健全財政と経営改善	県の財政が厳しい中、使途の見直しと重点指向を行うとともに財源の確保も合わせて考えていく。コストダウン、作業の一元化、また授業料その他の期限内収納を徹底する。ストップ温暖化に配慮した省エネを徹底する。	B	